

私たちの仕事、
私たちの実践

2

「癒し・憩い・ いい気分」を 感じられる 医療と病診連携

Medical Practice



Kawaguchi Mitsuhiro
川口光彦
川口メディカルクリニック院長
[岡山県岡山市]

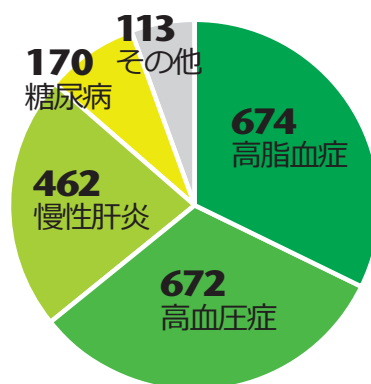
当クリニックでは、開院当初より「癒い・癒し・いい気分」（これを「3I」とよんでいます）をスローガンに掲げ、筆者は院長・かかりつけ医として、地域に密着した医療の充実を図るべく日々診療に努めてきました。その後、内視鏡専門医の後輩を副院長に迎えることで、患者様全員が満足いく医療サービスの提供と、急変時には電話1本でも即座に後方支援病院が対応できる体制を整え、7年を経過した現在では約2,300名の登録患者様の診療にあたっています（右グラフ）。

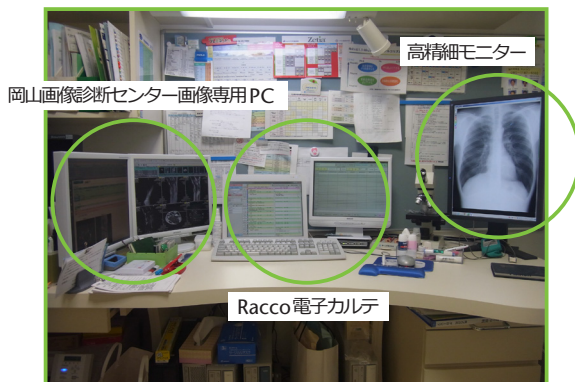
◆◆◆迅速な検査体制で患者様に安心感を

当クリニックに受診される方の多くが高齢でさまざまな疾患を合併しているため、

超音波や内視鏡などの検査体制の充実、日帰り手術、血液検査の迅速な報告体制をとっています。複数の検査を受診の当日に受けられ、高齢の方の通院に対する身体的負担を軽減したり、迅速に病状の変化を把握することによって、基礎疾患や合併症の悪化を予防することが可能となります。また、血液検査の結果報告はメール配信（当クリニックで開発したソフト）、FAX送信、電話で報告し、結果報告書は後で郵送するというサービスを行っています。

生活習慣病が激増している状況下で栄養指導はとても重要な治療の一つです。毎週月曜日と第2土曜日に管理栄養士に来院してもらい、予約制にて栄養指導を実施しています。院長・副院長ともに消化器疾患の専門医のため、当クリニックには消化器疾患の患者様が多数受診されます。消化器疾患の診療には画像診断が極めて重要です。当クリニックから徒歩3分のところに岡山大学病院の第3セクターである岡山画像診断センターがあり、診々連携のもとにインターネット専用ラインにて放射線科専門医





のつけた画像所見と画像報告を当院のPCで速やかに行っています（上写真）。CT、MRI、PETCTの総紹介数は年間1,000例近くになっており、最近はCT-C（大腸の3D画像検査）ができるようになり、年々紹介患者数が増加しています。

大病院では検査や診療の待ち時間が長く、高齢の方にとっては負担が多いため、当クリニックでは、スピード感にあふれた精度の高い診療と正確な検査報告の提供を行うことで、患者様に安心感をもっていただくよう努めています。さらに、啓蒙の一環として、奇数月の第4土曜の午後に健康教室（テーマ別）を院長、副院長と交互に分担し開催しています。内容は、川口メディカルクリニックのHP上(<http://www.kawaguchi-hp.or.jp/>)で公開しています。

◆◆病診連携で地域を見守る

基幹病院とかかりつけ医の間に良好な病診連携を構築していくことは、患者様にとって多大な利益をもたらすと考えられま

す。かかりつけ医では対応できない疾患に罹患したり、病状が急変した場合には、やはり基幹病院での加療が必要になります。そういった場合に、紹介先の医療機関との連携が十分に保たれていると、患者様の治療も良好に継続し、かつ病状が軽快した後の専門機関との連携が患者様とかかりつけ医との強固な信頼関係につながっていくと考えます。

病診連携構築に関しては、現在、行政側も深く理解を示し、多くの医療機関は病診連携の機構整備に日夜大きな努力を払っています。当クリニックは慢性疾患の通院患者数が多いのが特徴です。したがって、長年の診療で悪性化していく方も多数おられ、後方支援病院との病診連携は不可欠です。岡山市内の12の基幹病院と連携し、患者様の急変に対応してもらっています。

最近、超高齢の住民が地域から便利な街中に引っ越してきており、主治医をもたずに困っている状況が多々あります。今後、こうした超高齢の患者様の訪問診療を積極的に行っていくことがかかりつけ医の重要な役割と考えられます。さらに、認知症への対応も喫緊の課題となっています。幸い当クリニックは通所リハビリテーションを併設しており、周辺の高齢者の方々の認知症予防を目的に本施設の利用を積極的に促しています。なお、最近、筆者も含めたかかりつけ医と基幹病院の医師らと共同で「楽しい老後を目指す晴れの国勉強会」という研究会を立ち上げました。

◆◆自らが健康管理をできる仕組みを

健康に関する意識の高まりから、自分自身の体や病気について興味をもつ方が増えています。また、現在の電子カルテでは患者様の健康管理を一括に行うことは難しく、いつの間にか大きな検査が1年以上できていないというケースが多々あり、せっかく医療機関に通院しておきながら、手遅れの状態で病気が見つかったり、急性疾患の予知ができないのではないかといつも危惧していました。

そのようななかで、当クリニックでは患者様の健康管理を行うために、結果報告のまとめ・検査予定表などを一括できる患者管理ファイル（A4サイズのコミュニケー

ションファイル：COF、下図）を考案し、慢性疾患の患者様に手渡し、診察の際に持参してもらうようにしました。この企画は始まって間もないのですが、患者様自身も検査の管理ができるためかなり好評であり、幸先よいスタートを切っています。

世界最長寿国となった日本の医療はさまざまな問題をはらんでいます。これからIPS細胞による医療もますます発展し、また安全に実用されるようになれば、医療自体は様変わりしていくでしょう。ただそれまでにはもう少し時間がかかると思いますので、今の医療制度のなかで患者様全員が「憩い・癒し・いい気分」を感じられるようにスタッフ一同日々精進していきたいと思っています。

| 検査記録一覧 ●検査済 ○検査予定 | | 記入開始日 年 月 日 | | | | | | | | | | | | |
|-------------------|-------|-------------|-------|----|----|----|----|----|----|----|-------|-----|-----|-----|
| 検査項目 | 2012年 | | 2013年 | | | | | | | | 2014年 | | | |
| | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
| 血液 | ● | ● | ● | | ○ | | | | | | | | | |
| 腹部エコー | | | | | | | | | | | | | | |
| 心エコー | | | | | | | | | | | | | | |
| 脳動脈エコー | | | | | | ○ | | | | | | | | |
| 甲状腺エコー | | ● | | | | | | | | | | | | |
| エコーその他 | | | | | | | | | | | | | | |
| 胃カメラ | | | | | | ○ | | | | | | | | |
| 大腸カメラ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| ガン切除 | | | | | | | | | | | | | | |
| 心電図 | ● | | | | | | | | | | | | | |
| 負荷心電図 | | | | | | ○ | | | | | | | | |
| 24時間心電図 | | | | | | | | | | | | | | |
| 24時間血圧測定 | | | | | | | | | | | | | | |
| 脈波 | | | | | | ○ | | | | | | | | |
| 肺機能検査 | | | | | | | | | | | | | | |
| CO測定 | ● | | | | | | | | | | | | | |
| 骨密度(骨密度) | | | | | | | | | | | | | | |
| 糖尿 | ● | | | | | ○ | | | | | | | | |
| 排便 | | | | | | | | | | | | | | |

